

南天・福寿草

難を転じ春を迎える



はぐるま

仲間たちへ

地域の皆様方へ

理事長 澤 俊男

新年明けまして

おめでとうございます。

皆さんも元気に新年を

迎えられたことと思いま

す。そして、各自の今年の

生活目標・信念等を固め、

新しい年に挑戦していく

ことと思えます。

昨年は「はぐるま」の

大きな出来事の一つに

「宮前農園」を、区をは

じめ地域の大勢の方々に

励ましていただきながら

開所し活動を始めることができまし

た。仲間たちの積極的に地域にとけ込

んでいこうとする姿勢と相まって生

産協力等の面でも成果が上がってき

ていると聞いております。

今後はこれを更に発展させていける

ものと思えます。

そしてもう一つ、昨年の十二月には、

新第2ホームが完成いたしました。

ここは「宮前」と違い農園地帯ではな

く、住宅街の中にあります。近隣地域

の皆様にいるとご指導を頂きな

がら、一日も早く地域の一員として、

町にとけ込み成長していきたいもの

と願っております。

仲間たちはいつも全力で頑張っ

ていますので、引き続き、温かいご支援

をお願い申しあげます。

No.78号

2014年1月24日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会
後援会

川崎市多摩区首馬場1-18-17

Tel 044-946-1308

はぐるまには「5つの仲間目標」がありま
すが、今年は特に新入生・新入職員数名を迎
えますので、この目標の持つ意味を再確認し
伝え継続をしていくよう努めます。

今、日本国憲法改正論議がひたひたと論議
され、関連する法律は改正に向かって審議さ
れていますが、はぐるまの仲間目標は、日本
国憲法（平和憲法）の精神が盛り込まれてい
ると伝えられています。

「いじめない・いじめさせない」＝『戦争放棄』

「言いたいことを言う・言いたいことを言わせる」

＝『思想表現の自由』

「さぼらない・さぼらせない」＝『勤労の権利』

「あきらめない・あきらめさせない」

「仲間はずれにならない・仲間はずれにさせない」

＝『個人の尊重』

なぜはぐるまを希望するのか

―養護学校実習生の面談より―

作業所では、来年度3名以上の新しい仲間が迎えられるよう体制を整えているところです。新たな利用者受入れに向けて、養護学校の生徒さんの作業所実習を行っています。面談の折には、はぐるまについての説明をし、保護者の方や、学校の先生方から、なぜ、はぐるまを希望するのかについてお話を伺っています。

その中で特に、保護者の方に言われることが多いのは、「肥満の人が少なくてびっくりした。」「はぐるまは、運動に力を入れているのがよい。」「座り仕事ばかりでは、動かなくなってしまう。」「走るのが大好きだし、山登りに行けるのもうらやましい。」「という、運動面、健康面の評価です。

学校の先生方からは、「先輩仲間たちが、励ましの声をかけてくれるのがすごい。そのお蔭か、今まで見たことの無い、集中して頑張る姿が見られた。」「卒業生がバザーで、大きな声を出して品物の説明をしていた。学校では、フラフラしていることが多かったのに、ちゃんと働いて

いる姿を見て驚いた。」という仲間たちとの関係や、仕事面についての評価を頂いています。はぐるま側からは、「運動も仕事も、仲間集団の『共感し教えあう力』があるからこそ、ちょっと不安だけど一緒にやってみよう・・という気持ちになれるのです」とお話ししています。

「共感し教えあう力」は、なかなか自然には身に付きません。仲間と一緒に行動（時には、ツライ、メンドウクサイ行動）を何度もしてきた中では、「あの仲間も頑張っているな、ツライけど、自分ももう少しやってみよう」「一緒にできた！うれしい！仲間も喜んでくれる！もつとうれしい！」という共感する気持ちは生まれてきません。その共感しあう場（集団）に新しい仲間を引き入れて、言葉をかけあい教えあえるようにするためには、色々と工夫し適切な支援を行うことが必要となります。

はぐるまの特徴的な活動に、『電話点検』があり、毎日朝・夕に仲間同士電話で連絡しあいます。昼間一緒に励ましあえても、自宅に帰って一人になると「遅刻しないように仲間たちと約束したけど、何時に家を出るんだっけ？」

と忘れてしまったり、不安になることがよくあります。電話をかけあって確認しあい、目の前にいない仲間と気持ちを通じ合わせ、翌日の活動につなげていくことを大切にしています。

また、中には、電話には触らないように言われて育ち、電話を使っておしゃべりする家族をうらやましく思いながら、疎外感を持っていた仲間もいます。そんな仲間にとっては、「電話」は「大人の仲間入り＝自立」への光り輝く入口なのです。（最近は携帯に変わりましたが・・）「はぐるまに入ったら、親御さんにも、ご協力いただくようになります」と、「電話点検」の話も含めてお話し、多少の覚悟（面倒だなく・うるさいなくと思わず）をして頂いた上で、最終的な希望を出していただくようお願いをしています。

さて、どんな新しい仲間が来てくれるでしょうか？若い仲間は「りっぱな先輩」になりたいと張り切っています。それもまた楽しみです。

（はぐるま共同作業所 管理者 小畑美帆）

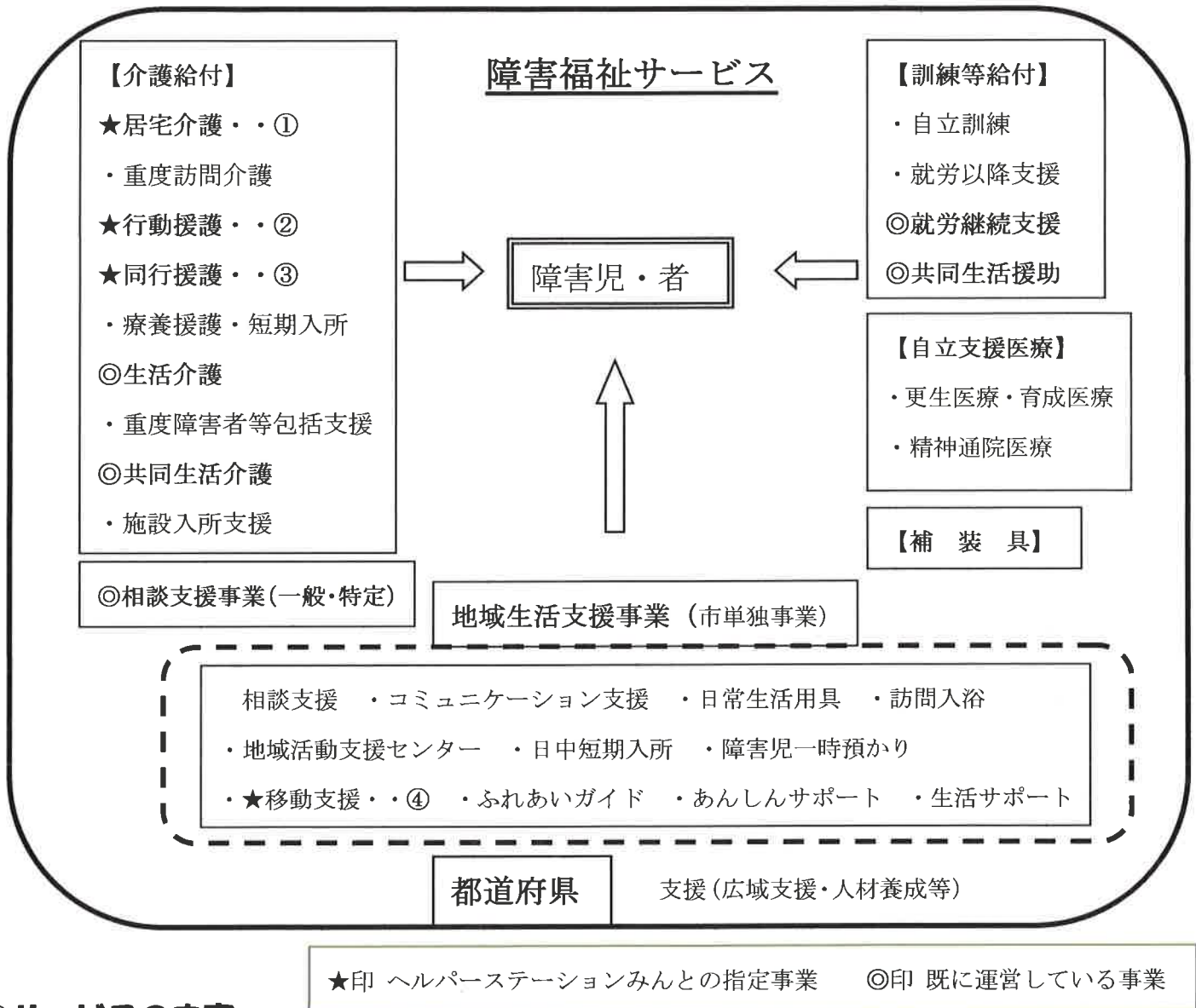


ヘルパーステーションみんと はじまりました



平成 25 年 6 月より開所しました、みんとの現状報告を致します。複数の指定を受けていますので川崎市発行の『ふれあい 25 年度版』の表を基に制度の説明と、具体的な実践例をお伝えします。

○サービスの全体像



○サービスの内容

- ① 居宅介護・・・入浴、排泄、食事の介助など、在宅生活における介護サービス。
- ② 行動援護・・・著しい行動障害を有する知的障害者・児、精神障害で、常に介護を必要とする方に対し、外出介護・危険回避のための援護支援。
- ③ 同行援護・・・視覚障害により移動に著しい困難を有する方の外出時における移動援護、情報伝達。
- ④ 移動支援・・・①移動・・・社会生活上必要な外出 余暇活動などの社会参加のための外出支援。
②通学・通所・・・学校の通学支援、施設などへの通所支援。

開所から7か月、「みんな」の稼働状況をお伝えします。はぐるま内の利用者14名の登録があり、行動援護・移動支援の利用で、月1回〜4回、個々の支給時間数に応じて外出をしています。

【外出例】

- ・靴下やシャツ、歯ブラシ等日用品の買い物
- ・散髪など生活に根付いた外出
- ・コンサート、映画、図書館、お祭り
- ・テーマパーク等趣味やお楽しみ
- ・スポーツセンターのジム
- ・地域活動（里山の会参加）

など個々の要求は多岐にわたります。

外出時の資金は、1回あたり2千円〜5千円ぐらいで、療育手帳や無料バス券を上手に使います。

皆さん単独外出に慣れていたので、初めはマンツーマンの支援を行います。カラオケやボーリングに出かけた後に「一人じゃ嫌だ」

との声が聴かれるようになり、「仲間と一緒にがいい」との本人の意向をくみ、グループ支援も取り入れていきます。

（確かにボーリングやカラオケは1人より仲間と楽しむ方が面白いですよね）

これからも本人が「経験して考えて選ぶ」この過程を踏むことを大事にして、ひとりひとりにあった利用計画を立てられるように、ご家族やホームの意見も参考にさせて頂きます。

また事業所として**同行援護**（視覚障害の方の外出支援）**家事支援**（調理・洗たく・掃除）**身体介護**（入浴・排泄・食事）**通学通所支援**も請け追っています。これまでの外部からの依頼は

- ① 通所通学支援 4件（多摩区外含む）
- ② 同行援護 1件

（月72時間、毎日2〜3時間利用希望）

③ 外出支援（制度上利用でなく自己負担）
いずれも時間的にヘルパー体制が整わない、料金の面で折り合いがつかない等で、利用に至りませんでした。

高津区からの通所支援の依頼には、近くの事業所を紹介する等、お引き受けできない件では、他の事業所と連携を取り利用ができるよ

うな対応を行います。

事業の経営状況は、月収40万〜50万円で、ヘルパーの人件費支出は約40万円ほどです。今後は、利用数を増やすことで安定的に事業が運営できるよう考えています。

現在15人のヘルパー登録をしていただいています。支援者であるヘルパーが孤立しないよう、2〜3組が一緒に出掛けるなどして、お互いのヘルプを確認し合い、学べる体制を作り支援の質を下げないよう工夫していきます。

在籍しているヘルパーの中には、高齢者支援の経験者、家事支援、身体介護を得意とする方、土日以外に希望される方など、経験が豊かな方たちがいますので、26年度はその方面にも力を入れ、障害をお持ちの方が地域で暮らし続けられるよう、貢献できる事業を目指していきます。

（ヘルパーステーションみんなと管理者 橋本妙）



「出初式に参加をしました」

今年は、はぐるま稗原農園で初めて迎える記念すべき新年となりました。仲間たちは豪華なおせち料理や地元稗原の八雲神社と菅生神社への初詣など、のんびりとしたお正月を満喫してくれたことと思います。

新年のごあいさつ中…



稗原八雲神社(天王社)にて

さて、稗原で迎えるお正月には、地域住民が一年を通して災害なく暮らせることを願う毎年恒例の出初式があり、はぐるまの仲間たちも、稗原自治会消防団主催の防災訓練、出初式に参加をさせていただきました。今年、自治会様のご厚意により、新しく仲間入りした「はぐるま稗原農園」の隣接地を

会場に選んでくださったともお聞きいたしました。この場をお借りいたしまして、あらためて仲間たちをあたたかく迎え入れてくださっている自治会、地域住民の皆様には厚く御礼申し上げます。



稗原農園より撮影

稗原農園のお隣の畑へ放水中



消防団からの災害用設備の説明に興味津々の仲間&職員です！

稗原農園施設は、災害発生時に、はぐるまの仲間全員が避難をし、数日間は無事な生活を送ることができるよう計画段階から設計をしておりますが、何より大切なのは同じ地域に暮らす方々との協力です。

阪神大震災や東日本大震災時には全てのライフラインが遮断され、消防車をはじめとする緊急車両の多くが災害現場に近づくことすらできなかったとの悲しい報告を受けています。昨年の9月に実施した東北研修旅行の際にも、十三浜や女川で被災された多くの方々から、やはり災害時に一番の助けとなるのは、日頃からの地元住民の共助・団結力だと教えていただきました。

もちろん地震や災害が起こらないことが人類共通の願いなのですが、首都圏にいつ何時発生してもおかしくないと言われ続けている大地震へ備え、いざという時には、はぐるまの仲間たちの暮らす中野島・菅・読売ランド・稗原地域のお役にも立てるよう、日頃からの備えを作業所やホームの運営でも心掛けていきたいと思えます。(本部 福田)

はぐるま後援会だより

はぐるまの会 後援会事務局

〒214-0004 川崎市多摩区菅馬場1-18-17

TEL 044-946-1308 NO, 27



会員の皆様には、昨年より格別のお心遣いを頂きありがとうございます。ありがとうございました。

今年も引き続き、ご支援のほど

よろしくお願い申しあげます

25年度の事業計画では、後援会として独自の活動を起し、少しでも収入が得られるようにしていくことが挙げられています。

まだまだ大がかりな活動とはいきませんが、会長をはじめ、役員でできることから地道に活動をしてきました。会員の皆様にも会費を納めて頂き、はぐるまの援護固めをしていただいておりますので、はぐるまの法人には発展的で、現実感のある事業展開をお願いし、後援会は強力なバックアップを目指せばよいと思います。

早速ですが

田園調布学園大学にて開催されます

「子どもがつくる町 ミニたまゆり」

に出店いたしますのでご案内します。

お時間がありましたら足をお運びください。

日時 2月9日(日) 10時～2時

趣旨 小学生の職業体験イベントの出店

喫茶コーナー体験協力

内容 小学生が売り子さんになり、お客様

と対応をする体験をお手伝い。

仲間も数人参加します。

販売品 ・コーヒート東北かりんとう

・工房の焼き芋

寄付金を頂きました

ありがとうございました

(順位不動)

あさお市^{いち}実行委員会様

神奈川生活協同組合様

すげフリーマーケット実行委員会様

多摩川エコ倶楽部様

志岐 チエ子様